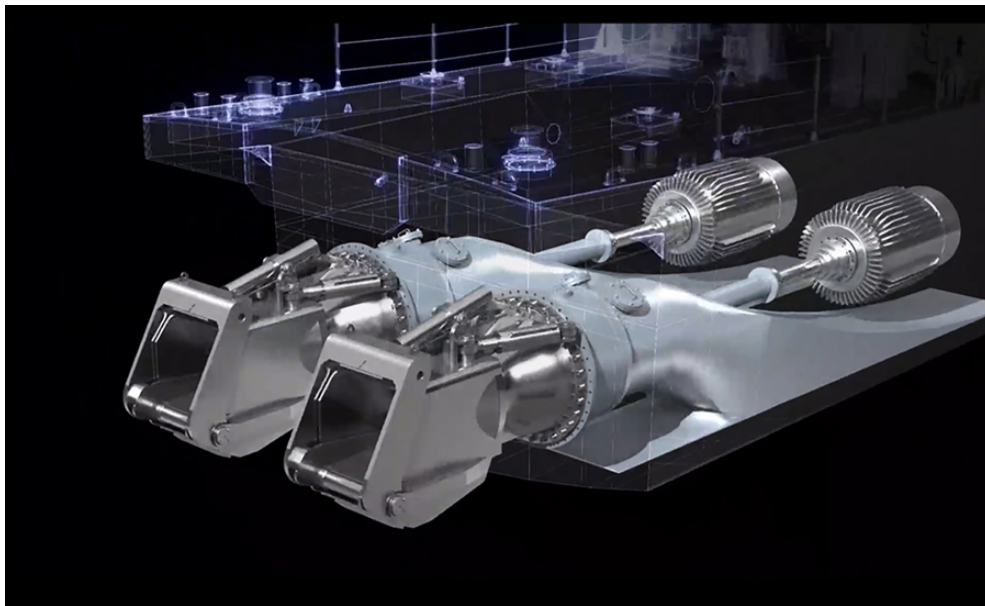


造船・船用

2022年3月11日

CTV向け推進装置を開発 三菱重工、ツネイシクラフトから初受注



三菱重工業は8日、洋上風力発電所へ作業員を輸送する洋上風力発電所用交通船（CTV）向けに、国内メーカーでは初となるウォータージェット推進装置を開発し、このほど常石グループのツネイシクラフト&ファシリティーズ（TFC）から初号機を受注したと発表した。独自開発の自動操船支援装置を搭載することで、日本の厳しい海象条件下でも安定した洋上風車へのアクセスを実現する。

初号機は風力発電所のO&M（運用・保守）などを手掛けるCTV船主のイオスエンジニアリング&サービス（千代田区）に納入予定で、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「風車運用・維持管理技術高度化研究開発」の一環として活用される方針。

三菱重工は国産のウォータージェット推進装置メーカーとして、防衛省・海上保安庁の艦艇・巡視船艇用途を中心にこれまで計200台以上の装置を納入した実績を持つ。同社製ウォータージェット推進装置は、装置本体にステンレスを採用することで高い強度・耐食性を備える。また、特殊軸流型インペラの採用で、ウォータージェット推進装置では難しいとされる低船速域での高い推進力とコンパクト性を実現している。

加えて、今回のCTV向けウォータージェット推進装置には、接舷支援システム、自動追従システムといった独自開発の自動操船支援装置を搭載しており、日本の厳しい潮流・波高の海

象条件下でも、操船技量に関わらず安定した洋上風車へのアクセスが可能となる。また、水中ロボットと連動した操船で、海中の風車設備点検作業の大幅な効率化も見込まれる。



洋上風力発電所に接舷するCTVのイメージ

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.